

次の文章を読み、問1～問11に答えよ。

〔1〕〔9〕は、各段落の番号を示したものである。

1 これまで私は、古代から現代までのちがいの問題にせず、物語について論じてきました。言ってみれば、「永遠の物語」を念頭に置いてきたのです。しかし、ここからは、「近代」と呼ばれる特殊な時代における物語の役割について話そうと思います。というのも、近代において社会のあり方が大きく変わり、それに応じて、新たな物語の形が求められるようになったからです。その新たな形とは、個人史という物語です。それまでの物語は、それをつくる人の個人的な歴史を直接に反映するものではありませんでしたが、近代になると、人は自分のことを語る必要が出てきたのです。

2 この変化は、日本文学を例にとればよくわかります。日本の近代文学には、それ以前になかったタイプの物語、すなわち、作家自身の生を語る「私小説」というものが現れたのです。〔1〕今日でもこの種の小説が日本ではなかなか盛んであり、それに応じる読者もかなりあります。では、いったいどうして、近代になるとそのような物語が生まれ、文学の常道にまでなってしまったのか。面白おかしく奇想天外な小説では、不十分だったのでしょうか。

3 ひとつには、近代は科学の時代で、うそっぽい話はもう流行らなくなったということがあります。話は「リアル」（＝現実的）でないとい

けない、そういう考え方が強くなったと思われます。そうすると、作家が自分の生の真実を正直に「告白」する道がひらけます。「私小説」隆盛の背景には、それがあつたと思います。

4 しかし、それだけではありません。思うに、近代という時代は人間の根本的な構造を変えてしまったのであり、それによって、文学の性^{せう}シツも変わらざるを得なかったのです。〔2〕日本に「私小説」のような個人史の物語が出てきたのも、そうした社会変化のせいだと思います。では、その変化とはどういうものであつたか。

5 簡単に言えば、それまでの社会では誰しもが生まれた時からその社会における自身の地位を与えられており、それを当たり前のこととして受けとめ、自身の社会における位置づけなど考える必要がないほどに安定した構造を持っていたのですが、近代になって、そうした構造がくつがえされて、人々は社会の定める安定した地位を失い、そのかわりに自分で好きなように地位を獲得したらいということになったのです。この変化によって、Aから解放されて自由になったように、自分で自分の人生を決めなくてはならなくなるという、今までにない苦勞を背負うことになりました。Bとしての意識に目覚め、そこからすべてを考え直す必要が出て来たそのことが、個人史物語の発達をうがしたのだと思われます。

6 たしかに、個人史物語は、それを生み出す人にとって、個人として己を確立しようとするのに役立つでしょう。日本人の場合、最初はヨ―

ロップ文学における「告白」物語に目をひらかされ、それに^h追隨した
だけだったかもしれませんが、自分もまた「告白」をしてみても、自分
という存在がより鮮明になり、自他の区別が明確になり、近代という
不安定このうえない時代を生きていくにあたってある種の勇氣を得た
のだろうと思われます。「私小説」が日本近代文学の常道となった、否、
王道となったというのも、真剣に自己を掘り下げ、それを正直に言葉
にしなくては自分というものを確立できないと作家たちが感じたから
にほかならない。〈3〉

7 では、そうした個人史の物語を、文学者でない人はどう見ているで
しょう。個人史を語るなど自己満足の^{*}すさびにすぎないと思う人は、
多いのではないでしょうか。ところが、実は、幼児からの心の発達を
研究する発達心理学では、こうした個人史の語りがきわめて重視され
ています。個人史を語るとは、人格形成において役立つというの
です。〈4〉

8 たとえば、現代の発達心理学者のひとり、^{*}キャサリン・ネルソンは、
幼児が自己と他者の意識、そして時間の経過の意識に目覚めるには、
自分に起こっている出来事を言葉で物語ることが大事であると言っ
ています。自分に起こる出来事を言葉で物語るとは、まさに個人史を語
ることにほかならず、個人史物語は自己を確立し、同時に自己を他者
との関係で位置づけ、社会環境のなかでの自分というものに目覚める
契機となるということです。

9 ネルソンにかぎらず、発達心理学の世界では、自己というものを最
初から存在しているものとは見ていません。むしろ成長とともに、次
第に形成されていくものと見ているのです。そういう立場からすると、
個人史物語とは、すでに存在する個人についての物語ではなく、それ
が語られることによつて個人が形成されていくような物語、というこ
とになります。なるほどそう考えると、日本の「私小説」なるものも、
「私」という自明の存在についての語りではなく、むしろ「私」と呼
ばれるものを物語の展開を通じてつくりあげていく語りである、と理
解できるのです。いきなりの近代化で宙に舞い、^{*}動顛^{どうてん}していた日
本人が、自分とは何かを求めるだけではなく、自分というものを確固
たる存在として生み出そうとした結果として「私小説」を生み出した、
というべきなのでしょう。

^{おおしまひとし}
(大嶋仁 「メタファー思考は科学の母」による……一部省略がある)

注

^{*}すさび…娛樂。

^{*}キャサリン・ネルソン…アメリカの発達心理学者。

^{*}動顛…「動転」と同じ。

問1 本文中の「永遠」の熟語の構成を説明したものとして最も適当なものを、次のⅠ群(ア)～(エ)から一つ選べ。また、「永遠」と同じ構成の熟語を、後のⅡ群(カ)～(ケ)から一つ選べ。

Ⅰ群

- (ア) 上の漢字が下の漢字を修飾している。
(イ) 上の漢字と下の漢字の意味が対になっている。
(ウ) 上の漢字と下の漢字が似た意味を持っている。
(エ) 上の漢字と下の漢字が主語・述語の関係になっている。

Ⅱ群

- (カ) 雷鳴 (キ) 速報 (ク) 利害 (ケ) 衣服

問2 本文中の「念頭に置いて」の意味として最も適当なものを、次のⅠ群(ア)～(エ)から一つ選べ。また、本文中の「追随した」の意味として最も適当なものを、後のⅡ群(カ)～(ケ)から一つ選べ。

Ⅰ群

- (ア) 最初から説明して (イ) 常に意識して
(ウ) 断続的に準備して (エ) 長時間調べて

Ⅱ群

- (カ) 後からついて行った (キ) おのずと張り合った
(ク) 大いに感動した (ケ) たちまち夢中になった

問3 本文中の「特殊」の読みを平仮名で書け。

問4 本文中の「例にとればよくわかります」を単語に分け、次の〈例〉にならって自立語と付属語に分類して示したものとして最も適当なものを、後の(ア)～(エ)から一つ選べ。

〈例〉日は昇る・・・ (答) 自立語＋付属語＋自立語

- (ア) 自立語＋自立語＋付属語＋付属語＋自立語＋付属語
(イ) 自立語＋付属語＋自立語＋付属語＋自立語＋自立語
(ウ) 自立語＋付属語＋自立語＋付属語＋自立語＋自立語＋付属語
(エ) 自立語＋付属語＋自立語＋付属語＋付属語＋自立語＋自立語

問5 本文からは次の一文が抜けている。この一文は本文中の〈4〉～〈4〉のどこに入るか、最も適当な箇所を示す番号を一つ選べ。

だからこそ、ものを書いて商売をするといった発想を度外視してまで、彼らは血のにじむ努力をしたのです。

問6 本文中のそれの指す内容として最も適当なものを、次の(ア)

～(エ)から一つ選べ。

(ア) 近代は科学の時代で、作家が自分の生の真実を「告白」する道がひらけたことにより、うそっぽい話が流行しなくなったこと。

(イ) 近代は科学の時代で、「私小説」が文学の常道となり、話は面白おかしく奇想天外でないといけないという考え方が広まったこと。

(ウ) 近代は科学の時代で、いかにも面白く奇抜な小説に人々が飽き、作家が自分の生の真実を「告白」することが文学の常道にまでなったこと。

(エ) 近代は科学の時代で、話は「リアル」でないといけないという風潮が高まり、作家が自分の生の真実を「告白」する道がひらけたこと。

問7 本文中のだけは助詞であるが、その種類として最も適当なもの

のを、次のI群(ア)～(エ)から一つ選べ。また、だけと同じ種類の助詞が波線部(~~~~~)に用いられているものはどれか、後の

II群(カ)～(ケ)から一つ選べ。

I 群

(ア) 格助詞 (イ) 副助詞 (ウ) 接続助詞 (エ) 終助詞

II 群

(カ) 目的地に着いたばかりだ。 (キ) 会えてうれしいよ。

(ク) メモをしつつ話を聞く。 (ケ) 今日は昨日より寒い。

問8 本文中の性シツの片仮名の部分を漢字に直し、楷書で書け。

問9 本文中のA・Bに入る表現の組み合わせとして最も適当

なものを、次の(ア)～(エ)から一つ選べ。

(ア) A 個人は個人 B 作家が作家

(イ) A 個人は社会 B 個人が個人

(ウ) A 作家は社会 B 社会が作家

(エ) A 社会は個人 B 作家が個人

問10 本文における段落どうしの関係を説明した文として**適当でない**も

のを、次の(ア)～(エ)から一つ選べ。

(ア) 2・3段落では、1段落で提示した話題について、具体例を挙げて説明している。

(イ) 4・5段落では、2・3段落で述べた内容を別の角度から捉え、主張を提示している。

(ウ) 6段落では、4・5段落で示した内容を認めつつ、論を展開させている。

(エ) 9段落では、7・8段落で述べた内容に言及しつつ、それは反対の立場で主張をまとめている。

問11 実沙さんと潤一さんのクラスでは、本文を学習した後、本文に関

連するスピーチをすることになった。次の会話文は、実沙さんと潤一さんが話し合ったものの一部である。これを読み、問い①～④に答えよ。

実沙 本文では、日本人が「私小説」という個人史物語を書く

ようになった経緯が述べられていたね。

潤一 そうだね。日本人が、近代という不安定な時代を生きて

いくうえで「ある種の勇氣」を得ることができたのは、発達心理学の見解から考えると、個人史を語ることが、自己をゆるぎないものとし、他者との関わりのなかで自己の立ち位置を定め、**X**を自覚するきっかけになったからだと言えるね。

実沙 なるほど。それに、発達心理学の見解では、自己は、発

達に伴いながら、**Y**であるということが本文からわかるね。そう考えると、個人史物語における個人にも同じようなことが言えるんだね。

潤一 そうだね。「私小説」は、**Z**ことによって生み出されたのだという筆者の主張にも納得がいくね。本文をよく理解できたし、スピーチについて考えようか。

① 会話文中の **X** に入る最も適当な表現を、本文中から十六字で抜き出し、初めと終わりの三字を書け。

② 会話文中の **Y** に入る最も適当な表現を、本文中から十二字で抜き出し、初めと終わりの三字を書け。

③ 会話文中の **Z** に入る最も適当な表現を、次の (ア) ～ (エ) から一つ選べ。

(ア) 突然の近代化で平静さを欠いた日本人が、自分を自明な存在として捉えるのではなく、物語の展開を介して自分という存在を確かなものにしようとした

(イ) 唐突な近代化に歓喜した日本人が、自分という存在を自明なものとして書くのではなく、物語の内容に応じて自分を確固たるものにしようとした

(ウ) いきなりの近代化に驚き慌てた日本人が、物語の展開を通して自分をつくっていくのではなく、自分という明白な存在を物語に書こうとした

(エ) 急速な近代化で落ち着きを失った日本人が、自分の存在を確固たるものとして語るのではなく、物語を書くなかで全く別の自分になれるようにした

④ スピーチ をするときの一般的な注意点について説明した次の文章中の **A** ～ **C** に入る最も適当な表現を、**A** は後の I 群

(ア)・(イ) から、**B** は II 群 (カ)・(キ) から、**C** は III 群 (サ)・(シ) からそれぞれ一つずつ選べ。

スピーチは、**A** 内容を決定し、**B** 構成となるようにする。また、スピーチを発表する際は、**C** とよい。

I 群

(ア) 聞き手の関心よりも、具体的な体験や自分の関心を優先して

(イ) 自分だけの関心に頼らず、話の目的や聞き手の関心にも合わせて

II 群

(カ) 話の順序を工夫して、考えの根拠を提示してわかりやすい

(キ) 豊富な話題を取り入れ、専門的な語を多用した複雑な

III 群

(サ) 調子を変えずに、話す速さを一定にする

(シ) 早口で話さずに、間の取り方を工夫する

問 10	問 9	問 8		問 7	問 6	問 5	問 4	問 3		問 2		問 1
ア	ア	性	Ⅱ	Ⅰ	ア	1	ア		Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ
イ	イ		カ	ア	イ	2	イ		カ	ア	カ	ア
ウ	ウ		キ	イ	ウ	3	ウ		キ	イ	キ	イ
エ	エ		ク	ウ	エ	4	エ		ク	ウ	ク	ウ
			ケ	エ					ケ	エ	ケ	エ

				問 11
Ⅲ	Ⅱ	④ Ⅰ	③	②
サ	カ	ア	ア	
シ	キ	イ	イ	
			ウ	
			エ	

			問 11	問 10	問 9	問 8		問 7	問 6	問 5	問 4	問 3		問 2		問 1
④ Ⅰ	③ ア	② 次第に くもの	① 社会環 うもの	エ	イ	性 質	Ⅱ 力	Ⅰ イ	エ	3	ウ	とくし ゆ	Ⅱ 力	Ⅰ イ	Ⅱ ケ	Ⅰ ウ
（ イ	（ ア			（ エ	（ イ	（ 質	（ 力	（ イ	（ エ	（ 3	（ ウ	（ とくし ゆ	（ 力	（ イ	（ ケ	（ ウ
（	（			（	（	（	（	（	（	（	（	（	（	（	（	（

Ⅲ
（
シ

Ⅱ
（
力

（

（

問4 単語に分けると「例／に／とれ／ば／よく／わかり／ます」と七つになる。ここで、選択肢はウかエにしぼられる。各単語をみていくと、「例」は自立語（名詞）、「に」は付属語（助詞）、「とれ」は自立語（動詞）、「ば」は付属語（助詞）、「よく」は自立語（副詞）、「わかり」は自立語（動詞）、「ます」は付属語（助動詞）となる。

問5 **ポイント** 抜けている文の「だからこそ」、「彼ら」という言葉に着目する。まず「彼ら」が誰を指すかを考えると、「彼ら」に該当しそうな言葉が出てくる箇所は、〈3〉か〈4〉の前である。〈3〉の前には「作家たち」が、〈4〉の前には「文学者でない人」が登場する。抜けている文では、「ものを書いて商売をする」とあることから、〈4〉に入れるのは不自然だと考えられる。〈3〉の前を読んで確認すると、「私小説」が日本近代文学の王道になったのは、真剣に掘り下げた自己を正直に言葉にしないと自己の確立ができないと作家たちが感じたからであることが述べられている。そのうえで「作家たち」を「彼ら」に当てはめると、違和感なくつながる。

問6 指示語が指す内容は、普通は前にある。「それ」の前の内容（『私小説』隆盛の背景）を捉えて判断する。

【「私小説」隆盛の背景】
（近代は科学の時代で）うそっぽい話は流行らない↓話は「リアル」でないといけないという考え方が強くなる↓作家は自分の生の真実を正直に「告白」する道がひらける。

問9 空欄Aの前にある「この変化」の内容を確認すると、同段落に、近代になると、それまでの社会が持っていた「安定した構造」がくつがえされて、「社会の定める安定した地位を失い……自分で好きなように地位を獲得したらいいうことになった」と述べられている。「自分で好きなように地位を獲得したらいいうことになった」とは、個人が社会から解放されて自由になったということである。空欄Bの前の「自分で自分の人生を決めなくてはならなくなる」ということが意味するものは何かを考える。ここでは作家に限った話をしているのではない。これらのことからイが適切である。

問10 適当でないものを選ぶことに注意する。1段落の、近代の社会変化で「個人史という物語」が誕生したという話題について、2・3段落では、日本を例にその誕生経緯を具体的に説明しているので、Aは適切。2・3段落で、日本の「私小説」誕生経緯を「科学」という視点から捉えているが、4・5段落では、社会変化という別の角度から捉えているので、イも適切。4・5段落の内容について、6段落では「たしかに……」と認め、「私小説」が日本近代文学の王道になったのは、作家たちが自己を掘り下げ「告白」することで不安定な社会を生きていく勇気を得たからであるという考えに発展させているので、ウも適切。7・8段落では、一般人にとつての個人史物語を発達心理学に関連付け、9段落では、ここから、日本の「私小説」も、個人史物語と同様に「私」を「物語の展開を通じてつくりあげていく語りである」とまとめている。よって、「反対の立場で主張をまとめている」と説明しているエが適当でない。

問11 **ポイント** 会話文は本文解釈のヒントになる。㊦「個人史を語る

こと」を発達心理学の見解から捉えた内容は、**7**→**9**段落で述べられている。空欄の前後の文言「個人史を語ることが……自己の立ち位置を定め、自己を他者との関係で位置づけ、社会環境のなかでの自分というものに目覚める契機となる」と似た表現がある。㊧空欄の前後の文言「発達心理学での見解では、自己は、発達に伴いながらである」に着目すると、これと似た表現が**9**段落に「発達心理学の世界では、自己というものを……むしろ成長とともに、次第に形成されていくものと見ている」とある。㊨「私小説」がどのようにして生み出されたのかについては、**9**段落に述べられている。また、それぞれの選択肢の内容を見ると、思いがけない近代化に慌てる日本人について書かれているので、このことに着目しながら「私小説」誕生について書かれた箇所を探していく。すると、最終文「いきなりの近代化で宙に舞い……確固たる存在として生み出そうとした」結果、「私小説」を生み出したとある。「確固たる存在として生み出そうとした」という作業は、具体的には、その前で『私』という自明の存在……むしろ『私』と呼ばれるものを物語の展開を通じてつくりあげていく語り」と述べられている。㊩スピーチをするときの注意点は、①聞き手が興味を持つような内容を選ぶ、②内容を項目ごとに分けたり、話す順序を工夫したりして、わかりやすく、客観的・論理的な構成にする、③話し方は、大きな声で語りかけるように、少しゆっくりと話し、間の取り方を工夫する、④聞き手の表情や態度に注意しながら話す、などである。